

令和 3 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立南高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制普通科

2 学校長 遠藤 広樹 （令和4年4月1日現在 在職2年目）

3 学校教育目標

(1) 教育理念

知性・自主自立・創造

(2) 教育目標

- 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成
- 自ら考え、自ら行動する力の育成
- 未来を切り拓く力の育成

4 教育方針

○高い学力を身につける

基礎基本に基づいた高い学力を身につけさせるとともに、科学的探究を通して学問や芸術への興味関心を育てる

○豊かな人間性をはぐくむ

生徒が、健全な心と身体を培い、生きる力を身につけ、豊かな人間性をはぐくむ

○グローバル人材を育成する

自他の人権を尊重する精神と集団の中で協力的に問題解決をする力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材を育成する

5 教職員数（令和3年12月1日現在）

学校長	<u> 1 </u>	校長代理	<u> 0 </u>	副校長	<u> 2 </u>	事務長	<u> 1 </u>	
教諭	<u> 53 </u>	（男	<u> 32 </u>	、女	<u> 21 </u>	）	養護教諭	<u> 2 </u>
実習助手	<u> 1 </u>	事務職員	<u> 4 </u>	技能職員	<u> 4 </u>			
A E T	<u> 2 </u>	非常勤講師	<u> 7 </u>	管理員	<u> 0 </u>			

6 生徒在籍数（令和3年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	5	93	103	196
2	5	90	103	193
3	5	93	94	187
4				
合計	15	276	300	576

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		62	62	100 %
生徒	1年	196	186	94.9 %
	2年	193	178	92.2 %
	3年	187	166	88.8 %
	4年			
	合計	572	530	92.7 %
保護者		572	489	85.5 %

8 自己評価実施日

教職員	令和3年11月13日～令和3年11月19日
生徒	令和3年11月19日～令和3年12月7日
保護者	令和3年11月16日～令和3年11月24日
地域	令和3年10月26日～令和3年12月5日

9 集計・分析期間

令和3年12月5日～令和4年2月3日

10 自己評価書の公表方法・時期

令和4年5月下旬までに、ホームページ上で公表する。

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 1～12、生徒 1～14、保護者 1～10)

取 組	<p>① 市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの編成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んでいる。・横浜市教育委員会より指定を受けたスーパーグローバルハイスクール（横浜版SGH）としての教育活動について、令和元年度までの文部科学省指定SGHでの活動を継続することを前提に、「総合的な探究の時間」を活用した教科横断型の探究活動「TRY&ACT」の不断の見直しを行っている。〔課題探究、企業・大学による講演・ワークショップ 等〕・横浜市教育委員会より指定を受けた進学指導重点校として、教員の授業力や進学指導力の向上に取り組んでおり、令和3年度も長期休業期間中の補講の充実、進路相談の充実、外部模擬試験等の活用、学習環境の整備を行った。〔中高合同授業研究会、模擬試験の実施、模試解説会（生徒対象）、模試分析会（教員対象）、補講・補習の実施、図書館開放（自習用）等〕・特別活動を通して問題解決力、コミュニケーション力の向上を目指し、自主自立の精神の涵養に取り組んでいる。〔特別活動（学校行事・生徒会行事・部活動 等）〕 <p>② 進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none">・①の進学指導重点校としての取り組みに加え、大学・企業・専門機関等との連携した教育に取り組み、平素の授業以外にも専門的で高度な学習機会を提供している。〔TRY&ACT、高大連携講座、大学別説明会、分野別説明会 等〕 <p>③ 市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・①の横浜版SGH、総合的な探究の時間の取り組みを通して、グローバルな視点を身につけさせる指導を継続している。・総合的な探究の時間（TRY&ACT）を活用し、課題研究の深化、異文化理解、デザイン思考力・論理的思考力の育成に取り組んだ。〔企業・大学と連携した講演会、講座、ワークショップ 等〕・横浜市教育委員会の海外大学進学支援プログラム（ATOP）の拠点校として、生徒の海外大学への進学支援を行っている。
-----	--

成 果

① 市立高校の魅力づくり

- ・教育活動等についての生徒への設問 1～7 全てにおいて、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答（以下、肯定的回答）が概ね 70%～90% 台前半である。（肯定的回答の目標値は 70% 以上）
- ・総合的な探究の時間についての生徒への設問 7 「総合的な探究の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった」において、肯定的回答が 80.6% であった。
- ・生徒への設問 8 「本校の生徒であることに誇りを感じている」では、肯定的回答が 87.9% と令和 2 年度より 1 ポイント上昇した。令和 2 年度が 86.9%、令和元年度が 78.5% であったので、着実に進歩している。
- ・保護者への設問 1～5 全てにおいて、肯定的回答が 70% 台後半から 90% 台前半である。設問 4 「学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している」が 79.1% と、中では最も低い数値となったが、これは令和 2 年度から続く感染症対策のために、行事を中止または縮小した影響であると思われる。
- ・生徒への設問 1 「ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている」の肯定的回答が 93.8%、保護者への設問 3 「お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」が 93.0% と高い評価となっている。
- ・教員への設問 7 「生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」において、肯定的回答が 80.6% である。

以上の評価から、本校の教育理念の一つである「自主自立」の精神獲得に向け、生徒・保護者・教員が目標を共有し、確実に普段の教育活動に落とし込まれ、適切に進んでいるものと判断している。

② 進路希望実現への支援

- ・進路に関する生徒への設問 13 「希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」、設問 14 「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」への肯定的回答が令和 3 年度も 90% を超える結果が得られた。保護者への設問 10 「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」への肯定的回答も 81.2% と目標より上の数値となっている。生徒による授業評価に関しても概ね高い評価が出ている。教職員への教科指導に関する設問 2～5 では、85% 以上の評価が得られている。

以上の評価から、本校教職員の生徒の進路実現への強い意欲が感じられ、教科指導力向上への一層の努力が認められていると判断している。

成 果	<p>③ 市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学校評価アンケートの設問項目には該当するものがないため、具体的な数値が測れないが、「総合的な探究の時間」や本校独自の育成システムであるグローバルリーダープロジェクト（GLP）における生徒の主体的な取り組みから、グローバルリーダーに対する興味・関心と意欲が感じられる。社会的事象をグローバルな視点から捉え、課題解決しようとする姿が見て取れる。
課 題	<p>① 市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動や学校生活に関する生徒・保護者及び教職員の評価は、年々向上し高い数値で推移している。これは、教職員集団が真摯に生徒・保護者に向き合い、お互いに連携できたこととして評価できる。しかし、これで満足であると考えている訳ではなく、令和3年度の課題を解決できるよう取り組んでいく。 ・ 地域の方々の学校評価の約半数は「わからない」という回答である。それを除けば肯定的回答が多いのではあるが、この「わからない」という評価を減らしていく。 <p>② 進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に関する設問については、生徒・保護者ともに高い評価を得られているが、細かく見ると生徒の方が高く、10ポイント以上の差があることが分かる。この差を埋めていく必要がある。 <p>③ 市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において、育成プログラムの中止や変更が相次いだ。教育活動が平常に戻った時点ですぐにプログラムが実行できるように、プログラムの準備と精選を怠らないことが必要である。
改善策	<p>① 市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、附属中学校とともに学習指導や生徒指導についての研究や授業改善に向けた取り組みなどを継続し、授業をはじめあらゆる場面での質的な向上を目指していく。 ・ 本校の教育活動を地域に向けて情報を発信し続けていく。また、教職員も生徒も折に触れ地域の方々との交流を持つことが必要である。現状のコロナ禍にあっては難しいことであるが、まずは挨拶から始めて距離を自ら縮めていく努力が必要である。 <p>② 進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の評価が生徒の評価に比べて低くなっている一因として、緊急事態宣言等で対面による保護者説明会が、ほとんど開催できなかったことがあると思われる。Y o u T u b e による動画配信などを随時行ったが、上手く時期を捉えて対面での開催の機会を可能な限り増やしたい。 <p>③ 市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成プログラムの中に、I C T を積極的に利用したものなどコロナ禍に対応していくものと、従来の対面・体験型のものを多く用意して状況に応じたプログラムを展開させていく。

2 教育活動の状況

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 13、14、保護者 1、10)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本校職員による進路ガイダンスの他、外部講師による進路講演会（動画配信によるものも含む）を実施した。また、進路保護者会（一部動画配信による）や進路通信を通じて保護者に適切な情報を提供した。 ・生徒一人ひとりに合った進路実現のために各学年で本校職員による模試解説会や夏期講習、冬期講習などの各種講習を実施した。また、3年生においては、年8回の土曜講座や入試直前講習を実施し、生徒の更なる学力向上を図った。 ・三者面談や二者面談においては模擬試験のデータを活用した学習指導・受験指導の徹底を図った。 ・模擬試験を3年生は年8回、1・2年生は年4回実施し、そのデータを進路相談等に活用した。 ・高大連携講座を東京工業大学、東京外国語大学、横浜市立大学、上智大学に依頼し、生徒に大学で学ぶことの意義を幅広く考察させ、進路実現へのモチベーションを高めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への設問13「希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」に肯定的な回答が3学年平均93.8%、また、設問14「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」に肯定的な回答が94.2%とどちらも非常に高い評価を得ており、生徒の進路に対する意識を高めることができた。 ・保護者への設問1「進学指導重点校として、模擬試験や面談の充実など適切な取り組みをしている」に87.1%、設問10の「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」では81.2%と昨年同様高い評価を得られた。 ・教職員からも設問10の「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている」に83.9%と令和2年度同様高い評価を得られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、保護者説明会、三者面談、進路相談を生徒、保護者がより満足できる内容にするため、さらなる手段を考え、職員全体のスキルアップを図る必要がある。 ・令和3年度はコロナ禍において進路保護者会や外部の進路講演会の実施が困難であり、動画配信などには限界があった。 ・成績不振の生徒へのアプローチをさらに考える必要がある。 ・1年生から家庭学習の習慣化を徹底させ、基礎学力の伸長を図ることが必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校である強みを生かすため、中学校の教職員、保護者と連携し、早くから進路に関する認識を共有する。 ・進路通信のさらなる充実化を図り、学校での取り組みや進路情報を生徒・保護者にきめ細やかに発信する。 ・家庭学習の定着のため、家庭と学校との連携・協力をより一層推進する。

□教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 8、生徒 3、保護者 3)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に生徒面談や三者面談期間を設けている。 ・気になる生徒について積極的に情報交換を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度より、生徒への設問 3「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談に乗っている」・保護者への設問 3「お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」において共に 90%を超え、令和 2 年度よりもさらにポイントが上がっている。 ・担任、学年担当、特別カウンセラー（特別 CO）、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携が図れる機会があり、生徒に対する理解が深まった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・面談期間以外でも常に生徒対応が必要である。しかし、本校は基本的に 7 時間目までであり、会議等も多く放課後の時間帯に生徒と話をする機会が持ちづらい。 ・校内における特別 CO の位置づけが明確でなく、生徒の困り感を共有する機会が限られる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として会議等の効率化を図ることなどを意識する。 ・特別 CO の位置づけを明確化する。 ・気になる生徒について学年や教科等と意思疎通を図り、関係する教員のすべてにおいて情報の共有が図れるようにする。

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 9、生徒 5、保護者 3・5・7、地域 3～6・8)

取組	・登校時の見守りを行いながら、登下校時のマナーやルール、公共機関での乗車マナーについて指導を行い、規範意識の向上について取り組んだ。
成果	・生徒・保護者各対象より肯定的な回答が少しずつ上昇している。
課題	・地域の方から否定的なご意見をいただくことあり、特に下校時の路上や乗車マナーについて課題が残る。 ・地域からの評価が全てにおいて低下の傾向にある。生徒の行動変容につながる指導や工夫が必要である。
改善策	・さまざまな機会を使い、違った立場からの継続指導を行う。また、家庭との生活指導上の課題について共有し、連携を深める。地域の方々に信頼していただける生徒の育成に取り組む。

□生徒会・委員会活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 2、保護者 4)

取組	・令和元年度来、新型コロナウイルス感染症による学校教育への影響をできる限り少なくする取り組みを行ってきた。その為、様々な行事を学校全体で生徒相互が協力しあい、創意工夫の下に作り上げていかれるように、また学習の場としても、生徒主体の生徒会活動を意識して指導にあたっている。また、生徒全員が参画し、つくりあげることができるよう生徒と話し合いながら、工夫して生徒会活動を行っている。
成果	・コロナ禍ではあるが、生徒は生徒会行事に積極的に参加し、協力して行事を成功させようとする姿が見られる。生徒の委員会活動では制限のある時間の中で協力し合い活動ができています。今後も生徒の主体性と自主性に重きを置いた丁寧な指導を実践する。
課題	・予測が付きにくい教育制限が続く事態に対し、立ち止まらずに効率的な活動ができるような生産的な話し合いのできるシステムを役員の中で考えていく必要がある。また、行事の準備にかかる時間や話し合う時間の確保や、委員会に所属していない生徒が積極的に生徒会活動に取り組めるような工夫が更に必要である。
改善策	・生徒会活動の年間計画の立案において、より効率的な活動計画を立案するとともに、生徒会活動に関して、委員の生徒はもとより、委員会に関わっていない生徒にも積極的に働きかけ、参加しやすい環境を整える。学年や他のセクションとも協力し、多くの生徒が機能的に参加しやすく、満足のできる生徒会活動を構築していく。

□学校生活の状況

(関連アンケート番号：教職員 4～12、生徒 7～12、保護者 6～9)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を通し、主体性と課題解決能力の育成に取り組んだ。同時に、生徒同士の交流の機会を確保し、さまざまな考えや意見があることを理解させ、他者の意見を適切に理解し、自身の考えを適切に発信することができるように取り組んだ。 ・学校行事を通して、全生徒が協働・協力の意識を培い、学習活動を含め充実した学校生活を送れる環境を整えることにより、本校の生徒であることに誇りを感じられるような指導をおこなった。 ・学年集会や模擬試験の分析を通して、日々の学習の効果が自分自身の学力の向上にどの程度反映しているかを客観的に理解させ、適切な学習活動に結び付くように指導をおこなうとともに、生徒自身の自信につながるような声かけを積極的におこなった。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への設問7「「総合的な探究の時間」では、主体的に考え、行動し、問題解決ができるようになった」の肯定的回答が80.6%であった。総合的な探究の時間を通し、主体的に考え、課題解決に取り組む生徒が増えたと捉えている。同時に、他者の意見を適切に理解し、自身の考えを適切に発信することができる生徒が増えた。生徒同士の交流の機会を確保した成果だと考えられる。 ・生徒への設問8「本校の生徒であることに誇りを感じている」で、87.9%の生徒が肯定的回答をしている。充実した学校生活を送れる環境を整えることにより、本校の生徒であることに誇りを感じられるような指導をおこなってきた成果と考えられる。 ・保護者への設問1「進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている」で、87.1%の保護者が肯定的回答をしている。学習への取り組みが効果をもたらしている生徒を中心に、より一層学習意欲を高めることができ、自らの成長にも自信を深めている。さらに積極的な声掛けも成果の一因と考えられる。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を通し、生徒同士の交流の機会をさらに増やすことで、さまざまな考え方や意見があること理解させ、見聞を広げさせることが必要である。 ・「本校の生徒であることに誇りを感じているか」という設問について、年ごとに数値の上昇がみられるが、この結果に満足することなく生徒全員が本校の生徒であることに誇りを感じられるように指導していく必要がある。 ・学習面で思うような成果が残せない生徒たちに対し、適切な指導・助言を与えるなど、個々に応じた指導の充実を図る必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の総合的な探究の時間だけではなく、学校生活全体を通して生徒同士の交流の機会を確保し、主体性と課題解決能力の育成に取り組んでいく。 ・学校行事や学級活動や日々の授業等を通して、生徒の自己肯定感を育み、本校の生徒として誇りを感じられるように指導する。また、学校行事の内容等を吟味し、より一層質を高めて活性化させることにより、生徒の参画意識を向上させ、愛校心を高める。 ・学校と家庭を両輪とした指導のため、家庭と学校との連携・協力をより一層推進する。また、オンライン授業などにむけた教職員の研修をおこなう。

3 学校経営の状況

□学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 13・14)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標実現のために、各学年・各分掌、各教科において主任を中心に工夫をしながら学校運営に取り組んでいる。横浜市教育委員会より指定を受けている横浜版スーパーグローバルハイスクール事業において、国際企画部と学年が協働し、企画・運営を行っている。大学や企業と連携し、講演会や講座、ワークショップ等を開催し、生徒の探究活動が深化するよう導いている。 ・学校経営の方針に基づき、あらゆる場面での活動を学年・分掌・委員会等で分担し、適切に行っている。令和3年度の重点課題である教育課程整備については、中高6年間を見据えた編成を委員会が中心となって各教科に働きかけ、時間をかけて検討した。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への設問 13「学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる」への肯定的回答が79.0%と令和2年度に比べて7ポイント下がったが、否定的な回答は少ない。 ・教職員への設問 14「学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている」についても、肯定的回答が80.6%と6ポイント近く下がったが、上記同様、否定的な回答は少ない。 <p>以上の評価から、教育目標実現へ着実に歩を進めていると判断している。また、円滑に学校経営が行われていると判断している。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標実現、中期学校経営方針の推進状況とも肯定的回答が約80%と目標値を超えているものの改善の余地があると考え、中高教職員の意思疎通、協働への意識を醸成していく必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や学校経営方針を中高教職員が常に意識しながら、あらゆる場面において情報を共有し、意思の疎通を図る場を増やす取り組みをしていく。

□組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 15・18)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校として、6年間を見通した組織づくりを念頭に、令和3年度より高校と附属中学校が合同で分掌会と各種委員会を行っている。また、令和2年度より附属中学校の生徒が高校の部活動に参加できる体制を整えた。 ・附属中学校との協働で、合同の校内授業研究会を企画、運営している。令和3年度は学習評価に焦点を当て、教科ごとの研究協議会と全体研修会を実施した。 ・教員の指導力向上に関して、初任者及び2年次研修、前期中堅教員研修（概ね5年次）、に該当している教員を中心に研究授業や研修会を実施し、授業力向上に日々努めている。 ・GIGAスクール構想元年と位置付けられた年度として、ICT教育に関する研修を長期休業中も含め多数実施した。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への設問15「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」への肯定的回答が80.6%と、令和2年度に比べて7ポイント以上下がったが、否定的な回答は少ない。 <p>以上の評価から、教職員が意欲的に業務に取り組んでいると判断している。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がより意欲をもって業務を推進していける環境づくりが必要である。 ・教職員への設問18「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている」への肯定的回答が75.8%と令和2年度を下回った。 ・ICT教育はまだスタートラインにあるので、各種の研修等を開催し実践につなげていく必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が改善に向けたアイデア等を活発に出し合える場を作り出していく。 ・授業や生徒指導、ICTなどを研究、研修する時間を確保すること。また、短時間で質の高い研修を目指す。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応に関する項目

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 1・4、保護者 3)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを丁寧に見ることや相談に応じることにより、いじめの早期発見と未然防止に取り組む。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への設問 1 「ホームルームでの良好な人間関係を築いている」や設問 4 「学校はいじめや差別を許させない環境づくりに努めている」への肯定的な回答が向上している。また、保護者への設問 3 についても向上している。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への設問 4 に対して、「あまりそう思わない」10.0%、「そう思わない」1.9%の評価がある。より一層学校のいじめ防止に対する取り組みを周知し、理解を図る必要がある。また、設問 1 について「あまりそう思わない」4.5%、「そう思わない」1.7%が限りなく「0」に近づける工夫が必要と感じる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の質的向上を目指し、体系的な人権教育の改善を目指す。また、いじめ防止と早期発見に関し、教職員のきめ細やかな観察と S C や養護教諭、家庭とのより一層の連携を実現する。

令和3年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

自己評価書資料
学校評価アンケート集計表

各教科授業評価
生徒アンケート
保護者アンケート
地域アンケート
職員アンケート

横浜市立南高等学校

1年（68期）《2021授業評価》							
科目名		国語総合					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	そう思 うや や思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	24.7%	46.8%	22.0%	6.5%	71.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	40.9%	46.2%	11.8%	1.1%	87.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	44.6%	46.2%	7.5%	1.6%	90.9%
授業 や先 生に ついて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	46.8%	45.2%	5.4%	2.7%	91.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.3%	22.0%	1.1%	0.5%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	69.4%	28.5%	1.6%	0.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	64.5%	31.2%	4.3%	0.0%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.9%	24.7%	3.2%	2.2%	94.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.0%	25.3%	1.6%	1.1%	97.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	65.1%	31.2%	2.2%	1.6%	96.2%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・令和3年度は、生徒主体で取り組むことができる活動を重点的に行った。
- ・早期に知識を定着させることを目指した。

(成果)

- ・生徒主体の授業でありながら、つけさせたい力や単元ごとの目標を共有した成果として、3のように生徒自身が主体的に参加することができ、項目5・6のように教員のねらいや熱意が生徒に伝わる授業を行うことができた。
- ・成果が項目2の評価につながっているものの、課題が残っているため、(課題)に後述する。

(課題)

- ・早期の知識定着を目指したが、一度は理解したはずの知識を試験などで活用できていない様子が見られた。

(改善策)

- ・まずは早期に知識を定着させ、小テストや、授業内での発問、予習・復習などを通して、生徒同士の主体的な授業参加を促すとともに、アウトプットの機会を増やす。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名		現代文B					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うやや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	9.8%	38.7%	31.2%	20.2%	48.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	22.5%	50.3%	17.9%	9.2%	72.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	19.1%	52.6%	20.2%	8.1%	71.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	32.9%	38.2%	20.8%	8.1%	71.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	61.5%	21.0%	11.2%	6.3%	82.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	24.9%	46.2%	16.8%	12.1%	71.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	26.6%	35.8%	22.0%	15.6%	62.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	46.8%	35.8%	12.1%	5.2%	82.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	44.5%	43.9%	7.5%	4.0%	88.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	17.9%	42.2%	21.4%	18.5%	60.1%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・評論では、意味段落ごとの要約や小見出しをつける活動を中心に理解を深めた。文学では、個人やグループの疑問やテーマをもとに場面の発表活動を行うことで、読解を深めた。

(成果)

- ・問題や課題に取り組む際、答えや結論に至るまでの過程で、先が見通せず諦めてしまう生徒（グループ）に対する働きかけが十分に取れず、生徒の理解や成果に差が生じていた。

(課題)

- ・話し合いを中心にした授業では自発的な活動が多くみられたが、講義形式の授業では、生徒の関心が深まりにくく理解度もそれに準ずることが多い。

(改善策)

- ・予習段階にかける指導を行い、生徒の課題を把握した上で授業を進める。

2年（67期）≪2021授業評価≫							
科目名：古典B							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.4%	42.8%	8.7%	5.2%	86.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	35.3%	55.5%	6.4%	2.9%	90.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	45.1%	45.7%	6.9%	2.3%	90.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	50.3%	37.6%	10.4%	1.7%	87.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	71.7%	25.4%	2.3%	0.6%	97.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	63.6%	27.2%	6.9%	2.3%	90.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	59.0%	31.8%	6.9%	2.3%	90.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	57.8%	33.5%	6.9%	1.7%	91.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	67.1%	28.9%	3.5%	0.6%	96.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	57.2%	36.4%	4.0%	2.3%	93.6%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・日々の授業や小テストを通して語彙や文法事項などについて学び、それらを活用して生徒自身が文章を読み取る機会を設けた。さらに文化的な背景を踏まえて、自ら意見を考える機会を適宜設けた。

(成果)

- ・日々の授業や、小テストなどを通しての確認により、古典を読み取るために必要な知識が身につけてきている。
- ・演習などの取り組みや、自ら意見を考える活動などで、古典を読み取るために必要な知識を根拠として説明できていた。

(課題)

- ・コロナ禍ということもあり、どうしても変更を余儀なくする計画もあつてか、年間を通した授業計画は説明できていない状況にある。
- ・授業を通して得た知識を、問題を解く際に活用することにおいては、演習がもう少し足りていないことが課題である。

(改善策)

- ・初見の文章に触れる機会をさらに増やしていくとともに、自らの意見を深化させる機会として創作活動などの言語活動を発展的に導入していくとよりよい成果に繋がると考えられる。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：現代文B		選択人数：150人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	26.7%	36.7%	24.0%	12.7%	63.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	40.7%	44.7%	13.3%	1.3%	85.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.0%	44.0%	6.7%	1.3%	92.0%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	54.0%	34.7%	8.7%	2.7%	88.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	62.7%	30.7%	6.0%	0.7%	93.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	62.7%	32.0%	4.0%	1.3%	94.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	62.7%	30.0%	6.0%	1.3%	92.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	64.0%	29.3%	5.3%	1.3%	93.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	70.0%	26.7%	2.7%	0.7%	96.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	56.7%	33.3%	6.0%	4.0%	90.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・教科書の読解は、段落ごとに個人でまとめ、代表者が全体に発表する形式をとった。
- ・授業冒頭に新聞記事を使い、見出しをつけたり、要約したりした。
- ・問題演習に入ってから、解説の検討をチームで行い、全体に発表した。

(成果)

- ・個人で考えることで、粘り強さを養えた。
- ・チームで考えることで、思考力を深めた。
- ・新聞記事に触れることで、社会に対する課題意識をもたせ、要約のスキルを磨いた。

(課題)

- ・授業評価における予習率の低さから、授業以外で文章に接していないことが懸念される。

(改善策)

- ・すべての学習の基盤となる「現代文」であるから、日ごろからまとまった量の文章を読み、要約したり、自分の考えを表現したりすることを続ける。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：古典発展		選択人数：83人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.0%	39.8%	9.6%	9.6%	80.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	37.3%	53.0%	6.0%	3.6%	90.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.2%	38.6%	8.4%	4.8%	86.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	49.4%	36.1%	9.6%	4.8%	85.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	69.9%	21.7%	4.8%	3.6%	91.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	57.8%	31.3%	6.0%	4.8%	89.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	51.8%	36.1%	7.2%	4.8%	88.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	61.4%	32.5%	3.6%	2.4%	94.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	67.5%	27.7%	3.6%	1.2%	95.2%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	54.2%	33.7%	6.0%	6.0%	88.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・基本的な事項の復習を中心に取り組み、特に漢文と和歌について学習を深めるよう留意した。

(成果)

- ・漢文に関しては、模試や共通テストの成果に繋がった。古文については、問題演習と読解量が少なかつたこともあり、難易度の高い文章には苦しむこととなった。

(課題)

- ・コロナによる影響と生徒の学習の経過を考慮した結果、年間計画通りに授業が行われなかった。

(改善策)

- ・基本的な取組については、高校2年生までに終わらせることが望ましいが、そうした点を授業で補うことも必要だが、補習等で対応し、当初の計画通りに進めることも必要である。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：日本史A							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	33.3%	39.8%	20.4%	6.5%	73.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	36.6%	45.2%	15.6%	2.7%	81.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	37.6%	41.9%	16.7%	3.8%	79.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	41.4%	44.1%	13.4%	1.1%	85.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	58.6%	36.6%	4.3%	0.5%	95.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	45.2%	45.2%	7.0%	2.7%	90.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	35.5%	35.5%	21.0%	8.1%	71.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	60.2%	31.7%	7.0%	1.1%	91.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	66.1%	29.6%	3.8%	0.5%	95.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	41.4%	43.0%	13.4%	2.2%	84.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・次年度以降に学習する日本史 B の学習を進める上で、近現代の基礎的な歴史的知識の習得を目指した。

(成果)

- ・日本の近現代史に関する基礎知識の構築は、十分にできたと考える。アンケートの内容から歴史の面白さを伝えられたのではないかと自負している。

(課題)

- ・授業内のポイントが板書内で分かりづらかった。プリントの字が小さく、読みづらかった。資料集の地図、グラフの使用頻度が少なく、多角的な考察があまりできなかった。

(改善策)

- ・資料集の写真、地図、グラフを授業内で適切に活用しながら、より深い考察できるようにする。歴史の流れや背景が分かり易いような授業づくりを心がける。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：世界史A							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	34.9%	47.3%	11.8%	5.9%	82.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	41.9%	46.8%	10.2%	1.1%	88.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	54.3%	38.7%	5.9%	1.1%	93.0%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	60.8%	30.6%	7.0%	1.6%	91.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.2%	16.7%	2.2%	0.0%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.8%	22.6%	1.1%	0.5%	98.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	76.9%	21.5%	1.1%	0.5%	98.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	79.0%	20.4%	0.5%	0.0%	99.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	71.5%	24.2%	3.8%	0.5%	95.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	84.4%	13.4%	2.2%	0.0%	97.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・次年度以降受講する現代社会、大学入学共通テストで多くの生徒が受験する「倫理・政経」等、公民科の学習を進める上で基礎となる歴史的知識の修得を目指した。

(成果)

- ・「倫理」分野の基礎知識の構築は、十分に推進できたと考える。2年次の「世界史」選択者が増えたことから、「世界史」の面白さも伝えられたのではないかと自負している。

(課題)

- ・コロナ禍での分散登校などの影響により、進度に遅れが生じたこと。授業間隔があいてしまい、前回授業の復習に時間がかかってしまったことである。

(改善策)

- ・自宅学習時などに取り組む課題プリントを充実させることで、知識・理解の定着をはかり、生徒が自主的に学習を進められるように指導したい。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名：日本史B		選択人数：67人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	62.7%	31.3%	3.0%	3.0%	94.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	59.7%	29.9%	6.0%	4.5%	89.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	73.1%	23.9%	3.0%	0.0%	97.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	61.2%	31.3%	6.0%	1.5%	92.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	83.6%	14.9%	0.0%	1.5%	98.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.1%	25.4%	1.5%	3.0%	95.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	76.1%	19.4%	3.0%	1.5%	95.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.1%	20.9%	3.0%	3.0%	94.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	79.1%	16.4%	1.5%	3.0%	95.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	79.1%	17.9%	0.0%	3.0%	97.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・3年の日本史発展、日本史応用に繋ぐ講座で、旧石器時代から室町時代までを扱った。

(成果)

- ・受験の結果だけでなく、生徒が意欲的に取り組み、歴史について探求する姿勢を育むことができた。

(課題)

- ・コロナ対応の短縮授業や分散登校の影響で進度の調整が困難であったこと。

(改善策)

- ・課題を作成したり、プリント等を工夫して取り組んだが、現状ではこれが最善と考える。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名：世界史B		選択人数：34人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%	82.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	38.2%	52.9%	5.9%	2.9%	91.2%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	58.8%	35.3%	0.0%	5.9%	94.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	50.0%	32.4%	11.8%	5.9%	82.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.4%	14.7%	0.0%	2.9%	97.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	44.1%	44.1%	8.8%	2.9%	88.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	35.3%	47.1%	8.8%	8.8%	82.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.5%	20.6%	0.0%	2.9%	97.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.5%	20.6%	0.0%	2.9%	97.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	47.1%	44.1%	8.8%	0.0%	91.2%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・3年の世界史発展、世界史応用に繋ぐ講座で、人類の誕生から明・清までを扱った。

(成果)

- ・積極的に世界史を学び、受験に向かう姿勢をつくることができた。

(課題)

- ・コロナへの対応で、授業時間を調整することが困難であった。

(改善策)

- ・単元ごとにメリハリをつけ、限られた時間で最善の成果を上げていきたい。

2年（67期）≪2021授業評価≫							
科目名：現代社会							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	11.0%	35.8%	34.7%	18.5%	46.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	23.7%	50.9%	18.5%	6.9%	74.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	28.3%	43.4%	19.7%	8.7%	71.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	26.6%	45.1%	24.3%	4.0%	71.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	40.5%	43.4%	13.3%	2.9%	83.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	31.8%	46.8%	16.8%	4.6%	78.6%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	19.7%	44.5%	24.9%	11.0%	64.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	45.1%	41.6%	9.2%	4.0%	86.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	45.1%	41.0%	11.0%	2.9%	86.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	23.1%	52.0%	18.5%	6.4%	75.1%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・大学入試で利用する「倫理」「政治・経済」の学習を進める上で、基礎的な知識を身に付けられる授業づくりをしている。

（成果）

- ・「倫理」「政治・経済」における基礎的な要素を伝えられたのではないかと自負している。また、生徒たちが質問しやすいような授業の雰囲気づくりもできた。

（課題）

- ・授業内のポイントが口頭での説明のみとなり、板書から欠落していたことが度々あった。生徒たちが自発的に考えることができるような発問や機会が少なかった。

（改善策）

- ・大学入試問題を研究した上で單元ごとのポイントを改めて理解し、板書へと反映させる。また、「倫理」「政治・経済」を年間でバランスよく扱えるように計画を立てる。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名		日本史発展	選択人数：36人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	72.2%	19.4%	5.6%	2.8%	91.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.2%	22.2%	0.0%	5.6%	94.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	72.2%	19.4%	5.6%	2.8%	91.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	83.3%	11.1%	2.8%	2.8%	94.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.9%	8.3%	0.0%	2.8%	97.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	88.9%	8.3%	0.0%	2.8%	97.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.9%	8.3%	0.0%	2.8%	97.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.1%	11.1%	0.0%	2.8%	97.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	86.1%	8.3%	2.8%	2.8%	94.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・2年からの継続で、江戸時代から引き続き授業を展開し、第二次世界大戦までを取り扱った。

(成果)

- ・受験の結果だけでなく、生徒が意欲的に取り組み、歴史について探求する姿勢を育むことができた。

(課題)

- ・コロナ対応の短縮授業や分散登校の影響で進度の調整が困難であったこと。

(改善策)

- ・土曜講座や補習を積極的に行ったが、現状ではこれが最善と考える。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名		日本史応用	選択人数：36人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	77.8%	16.7%	0.0%	5.6%	94.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.2%	19.4%	5.6%	2.8%	91.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	69.4%	22.2%	5.6%	2.8%	91.7%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	86.1%	11.1%	0.0%	2.8%	97.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.9%	5.6%	2.8%	2.8%	94.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	88.9%	8.3%	0.0%	2.8%	97.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.9%	8.3%	0.0%	2.8%	97.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.1%	8.3%	2.8%	2.8%	94.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	86.1%	11.1%	0.0%	2.8%	97.2%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・戦後から現代までを取り扱った。

(成果)

- ・日本史発展と同様、受験の結果だけでなく、生徒が意欲的に取り組み、歴史について探求する姿勢を育むことができた。

(課題)

- ・日本史発展と同様、コロナ対応の短縮授業や分散登校の影響で進度の調整が困難であったこと。

(改善策)

- ・日本史発展と同様、土曜講座や補習を積極的に行ったが、現状ではこれが最善と考える。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：世界史発展		選択人数：43人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	53.5%	41.9%	0.0%	4.7%	95.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	44.2%	46.5%	7.0%	2.3%	90.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	58.1%	34.9%	4.7%	2.3%	93.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	51.2%	39.5%	7.0%	2.3%	90.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	58.1%	37.2%	2.3%	2.3%	95.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	53.5%	37.2%	4.7%	4.7%	90.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	44.2%	41.9%	7.0%	7.0%	86.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	51.2%	41.9%	4.7%	2.3%	93.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.1%	25.6%	0.0%	2.3%	97.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	48.8%	39.5%	9.3%	2.3%	88.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・2年次必修で行った単元から引き続き授業を展開し、帝国主義までを取り扱った。

(成果)

- ・すべての分野をしっかりと取り組むことができた。

(課題)

- ・1年次既習単元（古代・中世）を振り返る時間が不足している。

(改善策)

- ・土曜講座やそれ以外の補習等により、振り返り時間を充足していきたい。

3年（66期）≪2021授業評価≫							
科目名：世界史応用		選択人数：43人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	58.1%	37.2%	0.0%	4.7%	95.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	44.2%	46.5%	7.0%	2.3%	90.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	62.8%	30.2%	4.7%	2.3%	93.0%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	51.2%	39.5%	7.0%	2.3%	90.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	65.1%	30.2%	2.3%	2.3%	95.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	58.1%	34.9%	4.7%	2.3%	93.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	53.5%	30.2%	9.3%	7.0%	83.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	62.8%	30.2%	4.7%	2.3%	93.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	69.8%	27.9%	0.0%	2.3%	97.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	53.5%	37.2%	9.3%	0.0%	90.7%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・第1次世界大戦から現代まで授業を展開した。

(成果)

- ・生徒になじみが少ない近現代史の分野で、十分な成果が得られたと思う。

(課題)

- ・現代史にもう少し時間をかけたかった。

(改善策)

- ・単元の順序を見直し、より効率化を図りたい。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：数学ⅠⅡA							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	62.9%	31.2%	3.2%	2.7%	94.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	48.4%	36.6%	14.0%	1.1%	84.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	68.8%	29.6%	1.1%	0.5%	98.4%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.6%	25.8%	1.6%	0.0%	98.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.2%	17.7%	0.5%	0.5%	98.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	79.6%	18.8%	1.1%	0.5%	98.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	80.1%	18.8%	1.1%	0.0%	98.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.9%	21.5%	1.1%	0.5%	98.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	83.9%	15.6%	0.5%	0.0%	99.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.5%	20.4%	1.1%	0.0%	98.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・習熟度別のクラス編成によって、そのクラスに合わせた速さで授業を行った。週末にその週に学んだ内容を課題として課した。長期休業中にも同様に課題を課し、休業明けに試験を実施し知識の定着を図った。

(成果)

- ・習熟度別のクラス編成や、各週、各休業中の復習や演習・課題により、基礎・基本が定着し、定期試験や休業明け試験で一定の成果を収めた。

(課題)

- ・授業で学習した内容が身に付いていると感じている生徒が少ない。直近の定期試験では成果を出せても、模試等で良い結果を出せない。

(改善策)

- ・期間を空けて繰り返し内容を確認し、さらなる知識の定着を図る。

2年（67期）≪2021授業評価≫							
科目名：数学ⅡBⅢ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	42.2%	41.6%	9.8%	6.4%	83.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	38.7%	42.8%	13.9%	4.6%	81.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.4%	33.5%	13.9%	5.2%	80.9%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.8%	21.4%	5.8%	0.0%	94.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	74.0%	21.4%	3.5%	1.2%	95.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.4%	20.8%	5.2%	0.6%	94.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	64.7%	24.3%	8.7%	2.3%	89.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.9%	20.8%	1.7%	0.6%	97.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.8%	23.1%	2.3%	1.7%	96.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	65.9%	26.0%	5.8%	2.3%	91.9%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・令和3年度は、Google Classroom を活用した授業も展開した。
- ・週末課題や長期休業に毎回課題を課し学力の定着を図った。

（成果）

- ・欠席生徒へ Google Meet を活用し授業配信を行ったり、課題のやり取りを Google Classroom で行い詳細な解法を伝えたりするなどして学習効果を高めた。
- ・試験などを通して、数学的な解釈や表現・処理する技能について一定の成果を収めていることを確認できた。

（課題）

- ・画面越しだと対面の授業より緊張感が足りない。今後の課題である。
- ・定着に個人差が。問題解決の過程を振り返って考察するなど自主的に取り組もうとする態度が見られない生徒がおり今後の課題である。

（改善策）

- ・発問内容を工夫するなど授業改善を行う。
- ・授業等で声掛けを行い、主体的に問題解決の過程や振り返りが考察できるよう指導助言を行う。

3年（66期）≪2021授業評価≫							
科目名 数学Ⅲ		選択人数：67人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	44.8%	38.8%	11.9%	4.5%	83.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	44.8%	31.3%	20.9%	3.0%	76.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	50.7%	29.9%	16.4%	3.0%	80.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	71.6%	22.4%	3.0%	3.0%	94.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	67.2%	22.4%	6.0%	4.5%	89.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	64.2%	25.4%	7.5%	3.0%	89.6%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	62.7%	26.9%	6.0%	4.5%	89.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	74.6%	17.9%	4.5%	3.0%	92.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	77.6%	16.4%	1.5%	4.5%	94.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	70.1%	22.4%	3.0%	4.5%	92.5%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・習熟度別のクラス編成を例年の3グループ展開から4グループ展開に増加させ、より生徒の実態に応じた授業展開を図った。また、Google meet や Google Classroom の活用を図った。

（成果）

- ・4グループ展開にしたことで、より生徒の実態に応じた学習活動を実践することができた。特に、ボトム層が数学Ⅲの高度な学習内容に対して積極的に臨む機会をつくることができたのではないかと考えられる。
- ・課題・改善策については、4グループのうち代表して1グループの実践について記入する。

（課題）

- ・保護者アンケートにもあったように4グループ展開のうち1グループの授業方法に大きな課題があった。それは担当教員が生徒に解法を教えずに終了することがある授業実践であった。この実践方法は南高校の生徒に必ずしもそぐわないことが推測され、また、生徒の授業評価の回答の否定的な割合が多い（数学科内他科目比）こと、保護者アンケートの記入内容に繋がっていることが推測される。

（改善策）・「解法を教えない」という実践方法をとる場合には、次の改善策などを講じる必要がある。

- ① 生徒の実態の把握の強化（生徒のみとりの詳細化）
- ② 学習内容が生徒の実態と比較して適切な難易度であるかの検討
- ③ 生徒だけで学習活動を進めるにあたっての適切な準備（発問、予備知識など）の検討

また、一方で、学習内容が高度な数学Ⅲにおいて生徒にどこまでの力を要求するかということも再検討していきたい。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：物理基礎							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	33.9%	45.2%	16.1%	4.8%	79.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	54.3%	36.6%	8.6%	0.5%	90.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	51.1%	41.4%	5.9%	1.6%	92.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	66.1%	29.0%	3.8%	1.1%	95.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.4%	21.0%	1.6%	0.0%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	69.4%	25.3%	4.3%	1.1%	94.6%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	68.8%	26.9%	4.3%	0.0%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.9%	26.3%	2.7%	1.1%	96.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.3%	20.4%	2.7%	0.5%	96.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	68.3%	28.0%	3.8%	0.0%	96.2%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・ Google Meet や Google Classroom を活用したオンライン授業と課題の配信を通して、基礎・基本が身に付くように図った。実験装置の製作と実験を行い、主体的に課題を発見してグループ活動で対話的に探究した。また、演習問題等によって深い学びができるように努めた。

(成果)

- ・ 実験に主体的・探究的に取り組む生徒たちが軸となって、原理や仕組みを積極的に考察し、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。

(課題)

- ・ 生徒によって予習復習、演習問題などの主体的な取り組みが、不足している生徒が見られ、理解度に差が見られる。また、実験やグループ活動に時間がかかり、授業の進度に遅れが生じた。

(改善策)

- ・ 身近な実験を通して関心を高め、グループワーク等の生徒が主体的・対話的に探究する場面を増やして、学習に取り組む意欲を高めるようにする。授業内容を精選し、Google Classroom を活用した家庭学習の充実を図る。

1年（68期）《2021授業評価》							
科目名		生物基礎					
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うやや そう思 う
自分 自身に ついて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	31.7%	48.9%	14.0%	5.4%	80.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	50.5%	41.4%	7.0%	1.1%	91.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	55.4%	39.8%	3.2%	1.6%	95.2%
授業 や先生 について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	64.0%	31.7%	2.7%	1.6%	95.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.9%	22.6%	0.5%	0.0%	99.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.3%	22.6%	1.1%	1.1%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	73.7%	23.7%	1.6%	1.1%	97.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.1%	23.7%	1.6%	1.6%	96.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	79.6%	19.4%	0.0%	1.1%	98.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	75.3%	23.1%	1.1%	0.5%	98.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・複数の教員で各クラスを指導する上で、共通のプリントを用意し、進度や内容を随時確認し合いながら年間計画に従い授業を実施した。また、Google Classroom や Google Meet などを活用し、欠席生徒に対して課題や授業ノートの提示、補習などを行った。

(成果)

- ・授業評価の結果から、取り組みは概ね良好であったと考えられる。クラスごとに授業内容の誤差が少なくなるように取り組むことができた。また、評価の観点も事前に相談し、生徒にも提示したことから、項目9においても高い評価を受けることができた。

(課題)

- ・項目1において、意欲的に学習に取り組んでいる生徒の割合が他の項目に比べて低い傾向が見られた。これは、宿題などはあまり出さないことから、予習復習をあまり行っていない点が課題と考えられる。

(改善策)

- ・学習習慣を身に付けさせるために、復習を中心とした学習方法を示すと同時に、レポートなどの課題を出して、思考力を高めさせる活動を充実させるようにする。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名		化学基礎	選択人数：88人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わない	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	34.1%	40.9%	18.2%	6.8%	75.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	56.8%	36.4%	5.7%	1.1%	93.2%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	46.6%	40.9%	8.0%	4.5%	87.5%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	65.9%	30.7%	2.3%	1.1%	96.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	37.8%	61.2%	0.5%	0.5%	99.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	79.5%	15.9%	3.4%	1.1%	95.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	80.7%	15.9%	2.3%	1.1%	96.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.4%	10.2%	2.3%	1.1%	96.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	84.1%	12.5%	1.1%	2.3%	96.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	76.1%	19.3%	2.3%	2.3%	95.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・令和2年度に引き続き、複数の教員での授業を展開するにあたって、授業進度や授業で扱う内容、および評価方法などについての情報交換を密におこなった。また、Google Classroom 内に授業で扱った内容や補足などの資料を提供し、生徒個人が入念に復習する環境を整えた。

(成果)

- ・授業評価の結果から、取り組みはおおむね良好であったと考えられる。また、項目1～3は生徒のGoogle Classroom での復習環境を整えたことで、昨年度よりも高い評価を得ることができた。

(課題)

- ・昨年度から上がっているものの、項目1が他の項目と比べて低い傾向がみられる。これはGoogle Classroom の活用頻度に生徒それぞれで差があることや、生徒が自分自身の理解度を確認する環境が少ないことが課題であると考えられる。

(改善策)

- ・Google Classroom の活用頻度を高めるために、必要な資料をGoogle Classroom に載せて授業内で共有したり、定期的な問題演習行ったりすることを通して、生徒の動機付けを図るようにする。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名		化学	選択人数：72人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.7%	40.3%	11.1%	6.9%	81.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	51.4%	38.9%	6.9%	2.8%	90.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	61.1%	31.9%	5.6%	1.4%	93.1%
授業 や 先生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	75.0%	19.4%	4.2%	1.4%	94.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	86.1%	12.5%	0.0%	1.4%	98.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	79.2%	18.1%	1.4%	1.4%	97.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	81.9%	15.3%	1.4%	1.4%	97.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	90.3%	8.3%	0.0%	1.4%	98.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	81.9%	16.7%	0.0%	1.4%	98.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	76.4%	22.2%	1.4%	0.0%	98.6%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・化学基礎との平行履修であるので化学基礎の進捗を確認しながら、化学基礎の内容を化学時還元できるあるいはその逆など、生徒が学んだ内容が結びつけることができる授業づくりを心がけた。また、複数の教員での授業を展開するにあたって、教員どうしで情報交換を密におこないながら Classroom 内に授業で扱った内容や補足などの資料を提供し、生徒個人が入念に復習する環境を整えた。

（成果）

- ・授業評価の結果から、取り組みはおおむね良好であったと考えられる。また項目1～3は生徒の Google Classroom での復習環境を整えたことで、昨年度よりも高い評価を得ることができた。

（課題）

- ・昨年度から上がっているものの、項目1が他の項目と比べて低い傾向がみられる。これは Google Classroom の活用頻度に生徒それぞれで差があることや、生徒が自分自身の理解度を確認する環境が少ないことが課題であると考えられる。

（改善策）

- ・Google Classroom の活用頻度を高めるために、必要な資料を Google Classroom に載せて授業内で共有したり、定期的な問題演習行ったりすることを通して、生徒の動機付けを図るようにする。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名		地学基礎	選択人数：84人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	15.5%	57.1%	23.8%	3.6%	72.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	32.1%	61.9%	4.8%	1.2%	94.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	51.2%	42.9%	4.8%	1.2%	94.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	53.6%	39.3%	4.8%	2.4%	92.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	45.2%	41.7%	11.9%	1.2%	86.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	47.6%	42.9%	8.3%	1.2%	90.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	54.8%	35.7%	6.0%	3.6%	90.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.2%	21.4%	1.2%	1.2%	97.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	65.5%	32.1%	1.2%	1.2%	97.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	57.1%	35.7%	6.0%	1.2%	92.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・令和2年度に引き続き、複数の教員で授業を展開しているため、教員同士の連携を密にし、授業進度や評価方法、授業で扱う内容などについての情報交換を積極的におこなった。

(成果)

- ・全体的に 90%近くからそれを超える好意的な評価が得られたことから、教員同士の連携を密にした成果が見られる。

(課題)

- ・項目1における「そう思う／ややそう思う」の割合が相対的に見て低い点が課題である。生徒の自宅学習への動機付けが弱いと考えられる。

(改善策)

- ・実験・実習を多く取り入れるよう心掛ける。ただ、天文分野など、分野によっては難しいところもあるので、様々な教材を収集、制作、改良していく。

2年(67期) <<2021授業評価>>							
科目名 : 物理		選択人数 : 57人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	38.6%	35.1%	15.8%	10.5%	73.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	50.9%	24.6%	17.5%	7.0%	75.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	35.1%	35.1%	19.3%	10.5%	70.2%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	50.9%	29.8%	10.5%	8.8%	80.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	42.1%	42.1%	10.5%	5.3%	84.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	33.3%	43.9%	12.3%	10.5%	77.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	29.8%	40.4%	19.3%	10.5%	70.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	36.8%	33.3%	21.1%	8.8%	70.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	49.1%	40.4%	7.0%	3.5%	89.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	31.6%	43.9%	12.3%	12.3%	75.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・ Google Meet や Google Classroom を活用したオンライン授業と課題の配信を通して、基礎・基本が身に付くように図ると同時に、実験の実施と発問を通して対話的に原理を考察させ、演習問題、記述問題によって深い学びができるように努めた。

(成果)

- ・ 実験に主体的・探究的に取り組み、原理や仕組みを積極的に考察し、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。

(課題)

- ・ 生徒によって予習復習、演習問題などの主体的な取り組みが、不足している生徒が見られ、理解度に差が見られる。また、実験やグループ活動に時間がかかり、授業の進度に遅れが生じた。

(改善策)

- ・ 身近な実験を通して関心を高め、グループワーク等の生徒が主体的・対話的に探究する場面を増やして、学習に取り組む意欲を高めるようにする。授業内容を精選し、Google Classroom を活用した家庭学習の充実を図る。

2年(67期) <<2021授業評価>>							
科目名 : 生物		選択人数 : 18人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 に	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	22.2%	61.1%	11.1%	5.6%	83.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	44.4%	38.9%	11.1%	5.6%	83.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	61.1%	33.3%	0.0%	5.6%	94.4%
授業 や先 生に ついて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	55.6%	27.8%	11.1%	5.6%	83.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	61.1%	27.8%	5.6%	5.6%	88.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	72.2%	22.2%	0.0%	5.6%	94.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	61.1%	27.8%	5.6%	5.6%	88.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	66.7%	27.8%	0.0%	5.6%	94.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.2%	16.7%	5.6%	5.6%	88.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	50.0%	44.4%	5.6%	0.0%	94.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・国公立大学入試を踏まえて、基礎力の徹底とともに、思考力や表現力を高める活動に力を入れ、応用力を高める取り組みを行った。また、実験を実施し、考察する力を高める取り組みを行った。

(成果)

- ・定期試験やグループ学習、実験の場で、生徒が学んだことを踏まえて考え、考察する能力が高まった。また、科学的な事象を文章で説明する力も徐々に身につけてきた。

(課題)

- ・基礎力の点で、まだ理解度が十分ではない生徒がいた。また、科学的な事象を文章で説明する力は高まってきたが、それを言葉で説明する力が十分でない生徒も見られ、これらの課題を解決する取り組みが必要である。なお、項目4がやや低かったが、短縮授業や分散登校により、授業が遅れた影響が大きかったと考えられる。

(改善策)

- ・グループ学習や発表、実験の考察を説明する機会などの充実を図る。また、基礎力が十分でない生徒に対しては、補習などを増やし、基礎・基本の徹底を図る。

3年（66期）≪2021授業評価≫							
科目名	物理					選択人数：59人	
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	50.8%	37.3%	6.8%	5.1%	88.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	50.8%	37.3%	5.1%	6.8%	88.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	45.8%	35.6%	10.2%	8.5%	81.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.9%	22.0%	1.7%	3.4%	94.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	74.6%	20.3%	1.7%	3.4%	94.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	74.6%	20.3%	1.7%	3.4%	94.9%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	71.2%	22.0%	5.1%	1.7%	93.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	72.9%	22.0%	3.4%	1.7%	94.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	78.0%	18.6%	1.7%	1.7%	96.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.0%	16.9%	5.1%	0.0%	94.9%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・生徒の苦手分野を定期試験や全国模試などの結果から把握し、授業だけでなく講習等の機会も活用して基礎基本を定着させてからそれを活用するステップへ段階的に進める指導を行った。

（成果）

- ・電磁気分野の理解度が格段に上がり、それに伴い各分野の理解度も増した。

（課題）

- ・項目3における「そう思う／ややそう思う」の割合が他の項目に比べて低く、授業に主体的に取り組む姿勢を養うことができる授業展開が必要であると考える。

（改善策）

- ・授業内で生徒実験を複数回行い、座学で学習している内容が日常生活の中でどのように密接にかかわっているのか、また実験結果をどのようにまとめ、考察していく手法を学ぶ機会を作る。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：化学		選択人数：70人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うやや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.1%	32.9%	5.7%	4.3%	90.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	47.1%	35.7%	11.4%	5.7%	82.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	62.9%	27.1%	7.1%	2.9%	90.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	81.4%	14.3%	2.9%	1.4%	95.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.0%	8.6%	0.0%	1.4%	98.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	81.4%	14.3%	2.9%	1.4%	95.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	80.0%	15.7%	2.9%	1.4%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	85.7%	11.4%	1.4%	1.4%	97.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.7%	12.9%	0.0%	1.4%	98.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	82.9%	15.7%	0.0%	1.4%	98.6%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・令和3年度は分散登校や短縮授業があり、限られた授業時間の中で内容を精選する必要があった。授業内容の補足として、Google Classroom に板書内容や解説プリント等を掲載し、自宅学習時に生徒が活用できるよう努めた。

（成果）

- ・項目4～9について、自宅学習でやるべきことと授業で重点的に扱う部分を明確にして授業を進めた結果と考えられ、自分自身についての評価項目1や項目3にも表れている。

（課題）

- ・項目2より、説明が不十分な箇所があったところが課題である。（取組）①に関連して、授業1時間あたりの進度を上げ、授業での演習時間を減らした点も考慮し、補習等で基礎の定着を図る必要がある。

（改善策）

- ・授業内容をより豊かにするとともに、今後もGoogle Classroomを活用したり必要に応じて補習を行ったりして生徒の学習をサポートし、生徒が安心して授業を受けられるよう努める。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：体育							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	32.8%	40.9%	17.2%	9.1%	73.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	58.1%	34.4%	7.0%	0.5%	92.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	67.7%	26.9%	4.3%	1.1%	94.6%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	87.1%	12.4%	0.5%	0.0%	99.5%
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	81.7%	16.7%	1.1%	0.5%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	76.3%	23.1%	0.5%	0.0%	99.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	60.8%	30.1%	6.5%	2.7%	90.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	72.6%	22.6%	4.3%	0.5%	95.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	75.3%	23.1%	1.1%	0.5%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	74.7%	23.7%	1.6%	0.0%	98.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・1年間を通じて、様々な種目や球技の型から選択制授業を実施し、主体的かつ積極的に授業に参加し、実りある授業の展開に向けて取り組んだ。

(成果)

- ・自らが選択した種目に対し、様々な選択者がいる中で多くのコミュニケーションや学び合い活動を主体的に実施することができた。

(課題)

- ・項目1が課題である。

(改善策)

- ・体育の目標である生涯スポーツにつなげるべく、自ら意欲的に運動に関わっていけるよう継続して指導していきたい。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：保健							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	29.6%	44.6%	18.8%	7.0%	74.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	48.4%	44.6%	5.9%	1.1%	93.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	56.5%	39.8%	2.7%	1.1%	96.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	64.0%	31.2%	3.8%	1.1%	95.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.3%	21.5%	1.1%	1.1%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.3%	22.6%	1.1%	1.1%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.0%	25.3%	1.6%	1.1%	97.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.7%	22.6%	2.7%	1.1%	96.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.3%	22.0%	1.1%	0.5%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	71.5%	26.3%	1.1%	1.1%	97.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・様々な健康に関する課題に対し、自らのこととして捉えて学習していけるよう取り組んだ。

(成果)

- ・多くの活動を通して、学び合い、協力してコミュニケーション活動や課題解決活動に取り組むことができた。

(課題)

- ・項目1が課題である。

(改善策)

- ・より様々な健康課題に対して、自らのこととして捉えられるよう、身近な課題を取り扱うことや問題提起をおこない、実生活にいかしていけるようにする。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名：体育							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	30.1%	37.6%	18.5%	13.9%	67.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	48.0%	38.7%	9.8%	3.5%	86.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	73.4%	21.4%	2.9%	2.3%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	83.8%	15.0%	0.6%	0.6%	98.8%
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	71.1%	24.9%	3.5%	0.6%	96.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	69.9%	27.7%	1.7%	0.6%	97.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	45.7%	34.7%	13.9%	5.8%	80.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	51.4%	35.8%	8.1%	4.6%	87.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	54.9%	32.4%	8.1%	4.6%	87.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	58.4%	34.7%	5.8%	1.2%	93.1%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・1年間を通じて、主体的かつ積極的に体育と関わり、自らで授業を作り上げていくよう取り組んだ。

(成果)

- ・選択した集団で、協力しながら、全員で授業を作り上げていくような活動ができた。

(課題)

- ・項目1、項目7が低い数値であり、課題である。

(改善策)

- ・生徒自ら進んで授業に取り組むための工夫をすること。また、実技でわからない動きなどの見本や、プリントなどの準備を行う。

2年 (67期) ≪2021授業評価≫							
科目名 : 保健							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	28.9%	35.8%	19.7%	15.6%	64.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	34.7%	47.4%	15.6%	2.3%	82.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	39.9%	46.8%	8.7%	4.6%	86.7%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	47.4%	39.9%	9.8%	2.9%	87.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	65.3%	30.1%	4.6%	0.0%	95.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	65.3%	29.5%	4.0%	1.2%	94.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	58.4%	32.4%	8.7%	0.6%	90.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	66.5%	27.2%	4.6%	1.7%	93.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	64.7%	28.3%	4.6%	2.3%	93.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	63.0%	32.4%	3.5%	1.2%	95.4%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・学んだことを自分自身の生活にいかせるかを重要と考え、身近な問題を取り入れ、話し合い活動や発表を用いながら、健康問題を意識させるようにした。

(成果)

- ・様々な活動を通し、よく関わり合い、協力して取り組むことができた。

(課題)

- ・学習の準備をして意欲的に取り組んでいるという生徒が少ない。

(改善策)

- ・より生徒の身近にある問題を扱い、興味関心が持てるようにする。また、授業毎に次の学習内容を提示するなど、意欲的に取り組める環境づくりを行う。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：体育							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思う
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	46.6%	32.9%	11.2%	9.3%	79.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.2%	32.3%	4.3%	3.1%	92.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	68.9%	26.7%	2.5%	1.9%	95.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	76.4%	20.5%	2.5%	0.6%	96.9%
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	71.4%	21.7%	3.7%	3.1%	93.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	72.7%	23.6%	3.1%	0.6%	96.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	50.3%	37.3%	7.5%	5.0%	87.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	58.4%	30.4%	6.8%	4.3%	88.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	59.6%	30.4%	5.6%	4.3%	90.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	60.9%	31.7%	5.0%	2.5%	92.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・生徒主体の活動にするよう考え取り組んだ。

(成果)

- ・主体的に楽しく活動できていた。

(課題)

- ・項目7、8が低いので課題である。

(改善策)

- ・副教材としてのプリントなど工夫する。

1年（68期）《2021授業評価》							
科目名：芸術							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.4%	37.6%	13.4%	7.5%	79.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	62.9%	34.9%	2.2%	0.0%	97.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	74.7%	23.1%	2.2%	0.0%	97.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	74.7%	22.0%	2.7%	0.5%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.3%	23.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	78.5%	21.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	73.1%	24.2%	2.7%	0.0%	97.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	82.3%	17.2%	0.0%	0.5%	99.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	81.7%	17.2%	1.1%	0.0%	98.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	77.4%	22.0%	0.0%	0.5%	99.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・コロナウィルスによって生じた教育活動への影響の中、単元の目標や授業のねらいを丁寧に説明し、観点を明確に伝える工夫を行い、単元の終わりに授業のねらいや観点を再確認できるようにした。

(成果)

- ・おおむね90%以上の生徒が理解していると判断できる。

(課題)

- ・選択者全員が、芸術への関心意欲を高め、主体的・積極的に授業に参加する内容に努める必要がある。

(改善策)

- ・授業の中での生徒たちとの信頼関係を築くことが大切なため、良い関わりを保ちながら指導にあたるよう教え方についての研鑽を行う。

1年（68期）《2021授業評価》							
科目名		コミュニケーション英語 I					
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	52.7%	38.2%	7.5%	1.6%	90.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	45.2%	38.2%	15.6%	1.1%	83.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	59.1%	36.6%	3.8%	0.5%	95.7%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	69.9%	27.4%	2.2%	0.5%	97.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	79.0%	19.4%	1.1%	0.5%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.1%	24.7%	1.1%	1.1%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	71.5%	26.3%	1.6%	0.5%	97.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	77.4%	20.4%	1.6%	0.5%	97.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.3%	22.6%	0.5%	0.5%	98.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	74.7%	22.0%	3.2%	0.0%	96.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・教科書を活用した授業展開は大きく分けてインプット・インテイク・アウトプットの3つの段階に分かれている。また、教科書を活用した授業展開以外に、速読教材を通して長文の概要把握にかかる時間を短縮するトレーニングを行った。また、多様なジャンルを含んだ難易度の高いリスニング教材を使用し、情報を正しく聴き取るためのトレーニングを行った。

(成果)

- ・ほとんどの生徒が授業を肯定的に捉えている。それぞれの活動が、どのような英語力の向上に繋がるか、生徒と教員間で意思疎通が取れたことが大きな要因と考える。

(課題)

- ・授業で学習した内容の理解とその定着が今後の課題である。

(改善策)

- ・英語を活用する時間をより多く確保し、同じ活動内容を繰り返すことができるような年間の授業計画が求められる。

1年（68期）《2021授業評価》							
科目名		英語表現 I					
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.0%	36.0%	5.9%	1.1%	93.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	44.1%	42.5%	12.4%	1.1%	86.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	58.1%	38.7%	3.2%	0.0%	96.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	62.9%	31.7%	4.3%	1.1%	94.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	71.0%	27.4%	1.1%	0.5%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	68.8%	28.0%	2.2%	1.1%	96.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	65.1%	30.6%	3.8%	0.5%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.1%	23.1%	2.7%	1.1%	96.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	75.3%	23.1%	1.1%	0.5%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	71.0%	25.8%	2.7%	0.5%	96.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・CALL 教室での活動は、音声教材を用いての授業である。AET と日本人教師のティームティーチングで、リスニング活動、ペアやグループによるスピーキング活動を行い、さまざまなトピックに対し、意欲的に英語を使って自己表現することができる力の向上を目指した。教室では、英文法の授業を行った。新たな文法を授業内で説明しながら不明な点を解決し、家庭学習で理解を深め、授業で小テストを毎時間行うことで自立学習を促した。

(成果)

- ・文法の授業において以前は苦手意識を持っている生徒も多くいたが、文法語法の家庭学習は以前に比べて向上しており、積極的に学ぶ生徒が増加した。

(課題)

- ・授業で学習した内容の理解とその定着が今後の課題である。

(改善策)

- ・定着を図るためには、取り組みにある「不明な点を解決し、家庭学習で理解を深める」というプロセスが欠かせない。より分かりやすい文法項目の説明と、家庭での学習習慣を定着させるような授業のデザインがより一層求められる。

2年 (67期) ≪2021授業評価≫							
科目名 : 英語表現Ⅱ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	34.7%	42.2%	14.5%	8.7%	76.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	36.4%	38.7%	20.8%	4.0%	75.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	50.3%	39.9%	6.4%	3.5%	90.2%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	60.1%	31.2%	5.8%	2.9%	91.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	57.2%	34.1%	5.2%	3.5%	91.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	46.2%	37.0%	9.2%	7.5%	83.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	43.9%	39.3%	10.4%	6.4%	83.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	59.0%	34.1%	3.5%	3.5%	93.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	61.8%	32.4%	3.5%	2.3%	94.2%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	48.6%	35.3%	9.2%	6.9%	83.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・1年次に触れた文法を異なる視点から学び、演習を通して身に付ける文法の授業と、実際のニュースを取り扱った教材を使いAETと行う授業を並行して行った。

(成果)

- ・項目2は、AETとの授業で使用していた教材の難易度が高かったことが比較的低い数字につながったことが予想されるが、定期試験で同程度の難易度のリスニングを行った際には8割程度理解できている生徒が多く、リスニング力の向上につながった。
- ・項目3で生徒が継続して積極的に取り組む姿勢を見せてくれたのは成果といえる。定期試験後に行った振り返りでは、ほとんどの生徒が主体的に学習し、自身の取組を改善していく様子を記述していた。

(課題)

- ・項目1では、毎週文法の授業で実施していた小テストについては、広くテスト範囲を指定して同範囲のテストを何度も実施するという形をとったが、この実施方法が生徒になじまなかったことが考えられる。

(改善策)

- ・項目1・7で、小テストの内容や授業で使用するワークシートの内容を工夫し、生徒が自身の取組の成果を感じられる機会を多く作ることで予習や復習に対する意欲を高めたい。

2年（67期）≪2021授業評価≫							
科目名		コミュニケーション英語Ⅱ					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	54.9%	35.3%	7.5%	2.3%	90.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	32.9%	46.8%	15.6%	4.6%	79.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.6%	45.7%	4.6%	1.2%	94.2%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	55.5%	37.0%	6.9%	0.6%	92.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	52.6%	41.0%	4.6%	1.7%	93.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	52.6%	41.6%	4.0%	1.7%	94.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	53.2%	34.1%	11.0%	1.7%	87.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	64.7%	30.1%	3.5%	1.7%	94.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	61.8%	32.9%	4.0%	1.2%	94.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	50.9%	39.9%	6.4%	2.9%	90.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・本校のラウンド制（※教科書の内容を年間を通じて何度も繰り返し教える方法）を生かして、生徒が何度も繰り返し学習できる方法を実践してきた。

(成果)

- ・項目2は、初めて該当レッスンを学習する際は概要をつかませ、2度目に学習する時には詳細を理解させ、最後にタスク学習をさせるという繰り返しの学習を実施することで、授業理解についてほぼ8割という高評価を得たと考えている。
- ・項目3は、上記学習方法により、主体的、積極的に参加する生徒が90%を超える成果を出せた。授業の振り返りを書かせることで生徒は学習の振り返りをして自らの課題を考え、次の学習に繋げていることも、より主体的に学習できた要因であったように思う。

(課題)

- ・項目2の授業理解について、目標の70%以上は超えているが、他項目と比較して数値が低い為、まだ教科書後半の概要把握しかしていないレッスンの詳細を今後繰り返し学習で理解させることが課題である。

(改善策)

- ・概要把握が終わったレッスンについても引き続きラウンド制学習を行い、文構造やストーリーの詳細な点についての理解も深めていき、アウトプット学習であるタスク学習に繋げる。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名：英語表現Ⅱα		選択人数：49人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	44.9%	34.7%	16.3%	4.1%	79.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	40.8%	44.9%	10.2%	4.1%	85.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	49.0%	36.7%	10.2%	4.1%	85.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	65.3%	30.6%	2.0%	2.0%	95.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	69.4%	26.5%	2.0%	2.0%	95.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.5%	22.4%	2.0%	2.0%	95.9%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	75.5%	20.4%	2.0%	2.0%	95.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.4%	26.5%	2.0%	2.0%	95.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	69.4%	26.5%	2.0%	2.0%	95.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	69.4%	28.6%	2.0%	0.0%	98.0%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・いろいろな文法項目や表現を使った英文を、小テストや英作文のパターン練習を通して定着させることを目標とした。

（成果）

- ・項目2の数値は、多くの生徒が積極的に取り組み、英語の表現を身に着けることができたことができたことと捉えている。

（課題）

- ・欠席しがちの生徒や、英語に自信が持てない生徒に個別対応する必要がある。また、学習習慣がついていない生徒にも適切な課題を課し、学習に継続性を持たせる。

（改善策）

- ・安心して質問ができる雰囲気を作る。なるべく生徒の答えを生かした添削をし、自信を持たせる。英文法・表現を何度も繰り返しながら指導し、知識の定着と理解を促す。

3年（66期）≪2021授業評価≫							
科目名		コミュニケーション英語Ⅲα	選択人数：47人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	31.9%	48.9%	14.9%	4.3%	80.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	36.2%	48.9%	12.8%	2.1%	85.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	46.8%	44.7%	4.3%	4.3%	91.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	59.6%	36.2%	2.1%	2.1%	95.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	74.5%	19.1%	4.3%	2.1%	93.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.2%	25.5%	2.1%	2.1%	95.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	63.8%	31.9%	2.1%	2.1%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	72.3%	23.4%	2.1%	2.1%	95.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.3%	21.3%	4.3%	2.1%	93.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	66.0%	29.8%	2.1%	2.1%	95.7%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・様々な英文を通して適切な読解力を身に付け、特に中堅大学入試レベルの英語が理解できることを目標とした。

(成果)

- ・項目3は、多くの生徒が積極的に取り組むことができたことを表している。

(課題)

- ・項目①の数値が比較的低いのは、学習の指導に加え、長期欠席の生徒や大学入試への不安から欠席してしまう生徒等の個々に対応した指導が徹底しきれていないと考えている。

(改善策)

- ・日々の授業を通して生徒を観察し声かけを行うと共に、基礎学力の向上や語彙力、英語長文読解力の向上による生徒の自信とモチベーションの向上を図ることができるよう指導していく。

3年（66期）≪2021授業評価≫							
科目名：英語表現Ⅱβ		選択人数：113人					
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	54.0%	31.9%	11.5%	2.7%	85.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	43.4%	42.5%	10.6%	3.5%	85.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	61.9%	31.9%	4.4%	1.8%	93.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	70.8%	23.9%	3.5%	1.8%	94.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.8%	16.8%	1.8%	2.7%	95.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.0%	18.6%	0.9%	3.5%	95.6%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	77.0%	17.7%	1.8%	3.5%	94.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	84.1%	10.6%	2.7%	2.7%	94.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	78.8%	16.8%	0.9%	3.5%	95.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.4%	15.9%	0.9%	1.8%	97.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・将来きちんとした英語の運用ができるよう、教材を厳選し指導した。

(成果)

- ・項目2の数値は、大部分の生徒のライティングの力を伸ばすことが出来た証しと捉えている。

(課題)

- ・到達レベルと4月時点での本人の理解度に大きな乖離のある生徒については、基礎基本を中心としたαクラスからスタートするよう指導したが、進度の早いβクラスを選択し、結局最後まで差が埋まらない生徒が10%程度いると感じている。

(改善策)

- ・2年時の段階で基礎基本が欠ける生徒は、強くαクラスからスタートするよう指導する。

3年（66期）《2021授業評価》							
科目名		コミュニケーション英語Ⅲβ	選択人数：115人				
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49.6%	40.9%	5.2%	4.3%	90.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	52.2%	38.3%	7.8%	1.7%	90.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	62.6%	31.3%	4.3%	1.7%	93.9%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.2%	22.6%	3.5%	1.7%	94.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	84.3%	13.9%	0.9%	0.9%	98.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.4%	20.0%	1.7%	0.9%	97.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	78.3%	18.3%	0.9%	2.6%	96.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	81.7%	14.8%	2.6%	0.9%	96.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	83.5%	13.9%	1.7%	0.9%	97.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.7%	14.8%	2.6%	0.9%	96.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・将来きちんとした英語が使えること、難関大入試レベルの英語が理解できることを目標とした。

(成果)

- ・項目1・2・3の数値は、多くの生徒が積極的に取り組み理解できたと捉えている。

(課題)

- ・到達レベルと4月時点での本人の理解度に大きな乖離のある生徒については、基礎基本を中心としたαクラスからスタートするよう指導したが、進度の早いβクラスを選択し、結局最後まで差が埋まらない生徒が10%程度いると感じている。

(改善策)

- ・2年時の段階で基礎基本が欠ける生徒は、強くαクラスからスタートするよう指導する。

1年（68期）≪2021授業評価≫							
科目名：情報							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	36.0%	41.4%	15.1%	7.5%	77.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	34.4%	46.8%	16.1%	2.7%	81.2%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	46.2%	44.6%	5.9%	3.2%	90.9%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	63.4%	28.5%	7.0%	1.1%	91.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	56.5%	34.4%	7.0%	2.2%	90.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	58.1%	32.3%	8.6%	1.1%	90.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	55.4%	29.6%	11.8%	3.2%	84.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	52.7%	30.6%	10.8%	5.9%	83.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	58.6%	27.4%	7.0%	7.0%	86.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	50.5%	34.9%	11.3%	3.2%	85.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・教科全体の構成および年間学習計画の周知を徹底し、学習内容と評価の規準を観点別に示した。
また、さまざまな状況においてもひとり一人の生徒が学習の継続を図れるように、オンラインを活用した配信授業を展開した。

(成果)

- ・学習内容と評価の規準を観点別に示したことで、学習のねらいや目標を明確にすることができた。
また、オンラインを活用した配信授業の展開により、概ね年間学習計画のとおり、授業を進めることができた。

(課題)

- ・新学習指導要領の実施に向け、学習内容と観点別評価の一体化を図るために、課題等を検討する必要がある。

(改善策)

- ・単元ごとに学習内容の定着を確認しながら、3観点との一体化を図る。
また、オンラインを活用した配信授業と対面授業との学習内容の定着について検証し、対応していく。

2年（67期）《2021授業評価》							
科目名：家庭基礎							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	24.9%	42.2%	19.1%	13.9%	67.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	46.2%	46.2%	4.6%	2.9%	92.5%
	3	主体的積極的に取り組み、課題を提出した。	60.7%	34.7%	2.9%	1.7%	95.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	67.6%	27.7%	3.5%	1.2%	95.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.5%	17.3%	1.2%	0.0%	98.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.4%	23.7%	2.9%	0.0%	97.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	76.9%	20.2%	2.9%	0.0%	97.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	79.2%	19.1%	1.7%	0.0%	98.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	73.4%	24.3%	1.7%	0.6%	97.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.6%	19.7%	1.2%	0.6%	98.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・分散登校や短縮授業が続いたため、グループワーク等が実施できないところもあったが、時間が短い分、効率的な授業を心掛けた。

日常生活と卒業後の自立に役立つ授業を目指し取り組んだ。

講演会や実習など実施できないものもあり、生徒・教員とも不完全燃焼と感じられるところもあった。

(成果)

- ・実習等できないところもあったが、効率的な授業を心掛けたことにより、学習内容の理解・定着はできていた。また、日常生活や自分の一生の中での課題を意識するなどの、成果が出ていると思われる。

(課題)

- ・学習内容は理解しているものの、意欲的に取り組めていない生徒が、例年より少し増えている。分散授業や短縮授業の影響で、授業展開が慌ただしくなったところもあり、工夫が必要である。

(改善策)

- ・来年度も制約の多い授業展開が予想される。授業内容を精選し、授業展開等を改善、生徒が一層の関心を持って取り組めるようにしていく。一人ひとりの生徒が、自身の今後の生活の自立に結びつけて様々な生活課題に取り組むことを意識するような授業を工夫する。

生徒による学校評価 全学年									
項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う・ややそう思う	R2年度	R1年度
教育活動等について	1	ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている。	72.6%	21.1%	4.5%	1.7%	93.8%	92.0%	87.9%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	37.9%	37.0%	16.8%	8.3%	74.9%	71.6%	73.6%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	57.9%	32.3%	7.0%	2.8%	90.2%	85.3%	81.0%
	4	学校はいじめや差別を許させない環境作りに努めている。	49.6%	38.5%	10.0%	1.9%	88.1%	75.8%	70.6%
	5	学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	53.4%	37.9%	7.4%	1.3%	91.3%	82.9%	77.2%
	6	学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	40.4%	44.0%	11.3%	4.3%	84.3%	79.8%	80.1%
	7	「総合的な探究の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	41.3%	39.2%	11.7%	7.7%	80.6%	令和3年度新設	
学校生活等について	8	本校の生徒であることに誇りを感じている。	54.3%	33.6%	7.5%	4.5%	87.9%	87.0%	78.5%
	9	学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	69.6%	25.5%	4.2%	0.8%	95.1%	95.0%	94.9%
	10	学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	70.4%	26.0%	2.6%	0.9%	96.4%	79.2%	75.6%
	11	災害時の校内の避難経路を把握している。	46.6%	37.7%	10.8%	4.9%	84.3%	73.9%	76.5%
	12	学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	45.3%	44.2%	7.9%	2.6%	89.4%	83.5%	74.4%
進路について	13	希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている。	66.8%	27.0%	4.3%	1.9%	93.8%	91.8%	84.4%
	14	進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している。	60.9%	33.2%	4.9%	0.9%	94.2%	93.8%	90.4%

保護者による学校評価								
項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う
教育活動等について	1	進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。	46.6%	40.5%	9.8%	1.4%	1.6%	87.1%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	40.1%	47.4%	7.0%	2.2%	3.3%	87.5%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	61.8%	31.3%	3.9%	1.2%	1.8%	93.0%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	40.3%	38.9%	13.3%	5.7%	1.8%	79.1%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	33.9%	46.8%	12.5%	1.4%	5.3%	80.8%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	41.3%	40.9%	9.4%	1.4%	7.0%	82.2%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	49.3%	41.1%	2.7%	0.6%	6.3%	90.4%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	71.8%	22.9%	0.8%	0.0%	4.5%	94.7%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	36.2%	44.6%	14.9%	2.0%	2.2%	80.8%
進路について	10	希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。	36.4%	44.8%	13.3%	3.1%	2.5%	81.2%

地域による学校評価									
項目	No.	評価指標	そう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わか らない	そう思う・やや そう思う	令和2年度
教育活動	1	学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	4.2%	22.9%	10.4%	8.3%	54.2%	27.1%	26.3%
	2	学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。	12.5%	35.4%	4.2%	4.2%	43.8%	47.9%	63.2%
生徒の様子	3	学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。	22.9%	35.4%	2.1%	8.3%	31.3%	58.3%	70.2%
	4	生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。	18.8%	39.6%	18.8%	6.3%	16.7%	58.3%	50.9%
	5	生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。	16.7%	37.5%	14.6%	4.2%	27.1%	54.2%	54.4%
地域貢献等	6	学校は地域の活動や行事によく協力している。	6.3%	14.6%	8.3%	12.5%	58.3%	20.8%	24.6%
	7	学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。	14.6%	20.8%	6.3%	12.5%	45.8%	35.4%	45.6%
	8	生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。	4.2%	8.3%	12.5%	10.4%	64.6%	12.5%	24.6%
	9	学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。	12.5%	18.8%	16.7%	10.4%	41.7%	31.3%	29.8%

教職員による学校評価											
No	大分類	評価項目	観点	評価指標	十分に実現できている	おおむね実現できている	あまり実現できていない	全く実現できていない	判断できない	十分に/おおむね実現できている	令和2年度
1	教育活動	第3期横浜市教育振興基本計画		「魅力ある学校教育の推進」に向けて学校全体として取り組んでいる。	17.7%	72.6%	6.5%	0.0%	3.2%	90.3%	93.1%
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	17.7%	71.0%	4.8%	0.0%	6.5%	88.7%	84.8%
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	17.7%	69.4%	3.2%	0.0%	9.7%	87.1%	94.8%
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	16.1%	74.2%	4.8%	0.0%	4.8%	90.3%	89.7%
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	27.4%	58.1%	3.2%	0.0%	11.3%	85.5%	89.7%
6			評価評定	観点別評価基準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	12.9%	58.1%	12.9%	1.6%	14.5%	71.0%	74.1%
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	11.3%	69.4%	11.3%	1.6%	6.5%	80.6%	81.4%
8		ホームルーム活動		生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。	16.1%	56.5%	8.1%	0.0%	19.4%	72.6%	79.3%
9		生徒指導		生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	19.4%	62.9%	11.3%	0.0%	6.5%	82.3%	86.2%
10		進路指導		生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている。	27.4%	56.5%	6.5%	0.0%	9.7%	83.9%	89.7%
11		保健指導		学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	21.0%	69.4%	1.6%	0.0%	8.1%	90.3%	86.2%
12		環境美化		資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	11.3%	69.4%	12.9%	0.0%	6.5%	80.6%	87.9%
13	学校経営	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	17.7%	61.3%	4.8%	0.0%	16.1%	79.0%	86.2%
14		学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	19.4%	61.3%	6.5%	0.0%	12.9%	80.6%	86.2%
15		職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	24.2%	56.5%	9.7%	0.0%	9.7%	80.6%	87.9%
16		学年経営		各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	16.1%	59.7%	3.2%	0.0%	21.0%	75.8%	86.2%
17		職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	16.1%	69.4%	11.3%	0.0%	3.2%	85.5%	86.2%
18		研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	12.9%	62.9%	16.1%	0.0%	8.1%	75.8%	79.3%
19		学校経理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	22.6%	69.4%	0.0%	0.0%	8.1%	91.9%	89.7%
20			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	35.5%	61.3%	0.0%	0.0%	3.2%	96.8%	87.9%
21		学校施設 設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	16.1%	62.9%	14.5%	6.5%	0.0%	79.0%	75.9%
22		情報管理		個人情報の管理が適切である。	29.0%	69.4%	0.0%	0.0%	1.6%	98.4%	91.4%
23		保護者・地域等との 連携協力	PTA活動	P T A との連携・協力の推進が図られている。	17.7%	69.4%	3.2%	0.0%	9.7%	87.1%	89.7%
24			地域等との 連携 協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	16.1%	66.1%	4.8%	0.0%	12.9%	82.3%	86.2%
25		危機管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	19.4%	66.1%	6.5%	0.0%	8.1%	85.5%	91.4%
26			防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	17.7%	72.6%	4.8%	0.0%	4.8%	90.3%	87.9%
27		情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	27.4%	64.5%	0.0%	0.0%	8.1%	91.9%	98.3%
28	いじめに関する項目	いじめへの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	22.6%	66.1%	1.6%	0.0%	9.7%	88.7%	87.9%	

令和 3 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立南高等学校
横浜市立南高等学校附属中学校

調査全体の日程

調査日：令和3年10月1日～令和3年3月31日

調査対象校：横浜市立南高等学校

横浜市立南高等学校附属中学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・横浜市立南高等学校附属中学校 学校運営協議会

リーダー：高木 展郎（横浜国立大学教育学部名誉教授）

記録等担当者：角田 武彦（横浜市立南高等学校副校長）

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

魅力ある高校教育の推進状況に関しては、教職員評価、保護者評価ともに高い評価となっており、本校のこれまでの教育成果が認められる。

新学習指導要領に対応した学習評価と実践に関する研修も行っており、中高合同の教科会が充実しだしている。中高の協力した取り組みは、これまで以上に充実してきている。今後は、各教科でこれまで以上に連携を深め、カリキュラム・マネジメントを充実し、中高6カ年の学習指導及び学習評価を行うことが求められる。

これまでも行われてきているが、中学校の「総合的な学習の時間」をさらに高等学校で発展・充実させ、探究的な学習としてより充実が求められる。そのためには、年間の学習指導をカリキュラム・マネジメントの継続的な研修を深める中で、PDCAサイクルのより生きる教育活動を行うことが今後重要となる。

2 教育活動の状況

□進路指導の状況について

進路指導の取り組みとしては、進路ガイダンスや外部講師による進路講演会、保護者への情報提供を適切に行うとともに、生徒一人一人に合った進路指導を行っている。また、三者面談や二者面談も丁寧に行われている。そのことは、アンケート調査においても肯定的な回答が高いことから見て取れる。

今後の課題としては、中央一貫教育校の強みを生かし、中学校の時期から進路指導の充実を図ることが求められる。

□学習指導の状況について

COVID-19の影響により休校があり、授業時数の不足に対応するため年間指導計画を年度途中で見直すなど、授業の充実に向けての取り組みは、高く評価できる。

本年度は、中高での充実した一貫教育を図ることが教員間に意識付き中高合同の研修会においても、6年間を見通した資質・能力の共有を図ることが意識付けられたことは、評価できる。また、これまでも行われ成果を上げている中高一貫した「総合的な学習の時間」は、COVID-19の影響で、実施困難な面もあったが、教育課程の一部変更により、状況に見合った内容で実施を行ったことは、評価できる

中高合同の授業研究会を実施し、6カ年を見通した資質・能力の指導の方向性を明確にし、各教科等において「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の取り組みを図り、「チーム南高等学校・附属中学校」としての向上が充実の方向性を見いだしていることは、評価できる。今後この継続と発展・充実が求められる。また、人間関係の構築やコミュニケーション力の育成を図るカリキュラムの充実は、評価できる。

今後の課題は、新学習指導要領の全面実施に伴い、中高における学習評価の充実を図ることが重要となる。特に、各教科等の特質に応じた教育課程の編成と、それに伴う年間指導計画と単元ごとの指導計画と育成すべき資質・能力を明示し、教育内容を生徒のみでなく保護者にも示し、理解を図ることが重要となる。

□教育課程の状況について

COVID-19により、年度当初に立案した教育課程をそのまま実施することが難しい状況の年度であった。しかし、年度の途中において教育課程を見直すことにより、授業時数の不足や各教科等において指導事項の精選により対応したことは評価できる。さらに、各教科等において「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るため、言語活動の充実や観察・実験等を行う際の授業形態を工夫することにより、その実現を図ることが行われたことは評価できる。

中学校と高等学校での「総合的な学習の時間」を、中高一貫した教育課程の編成により、その趣旨や目的、内容の充実を図ったことは、高く評価できる。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況について

学年会、部会（教務・総務・生徒指導・学習指導）、企画会、職員会議を計画的に設定し、情報共有と議題調整を図り、中高統一した校内組織として業務の組織対応の充実が図られたことは、高く評価できる。さらに、企画会においては、調整期間としてだけでなく、学校運営に関わる協働した検討会議としての機能の充実が図られていることは、評価できる。

今後、企画会の充実を一層図る中で、中高連携に関する業務の軽減に係ることを行おうとしていることも評価できる。企画会が、単なる学校の方向性を決めるだけでなく、教育活動の質の担保と教育効果の上がる内容を検討する会議として、より一層充実は図ることが期待される。

教職員の研修として、授業力向上を図るために中高全職員で行った研修は、授業改善に向けた一人一人の職員の意識向上に意味あるものとなっている。授業改善は、一人一人の教師の意識改革にあり、それを学校としてのベクトルにいかにより昇華するかが重要となる。そのために、研修後に教科ごとに分科会を設定し、中高6カ年を見据えた教育課程についての取り組みが行われたことは、高く評価できる。

また、授業力向上研修を行うことにより、教科を超えた授業づくりに取り組む体制を作ることができてきたことも評価できる。今後も、このような研修を継続的に、行うことが求められる。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

「いじめはどこにでも起こりうるという共通認識を持ち積極的に認知していく。」ということ、学校全体の共通認識として持ち、各学年の情報共有を図りつつ、学校いじめ防止基本更新の改定を図ることを行っていることは、評価できる。そのために、職員による情報収集を日常的に図っていることも評価できる。

具体的には、学級活動や道徳、総合的な学習の時間を通し、安心して学校生活のできる環境を作っていることも評価できる。

また、教育相談によって、生徒との関係性も気付くことも行われている。さらに、グループワークトレーニングより、生徒間の仲間作りや協力して課題解決をする姿勢の育成を図ったり、生活委員会の生徒の取り組みを通し生徒自らがいじめ防止に取り組む意識の育成を図ったりしていることも評価できる。

5 総評

中高一貫教育校として発足してから年度を重ねる中で、6カ年を見通したカリキュラム・マネジメントが機能する学校教育を行おうとする姿勢が認められるようになってきた。

これまで、中学校教育と高等学校教育とがそれぞれに目的を持って行われてきた傾向にあったが、6カ年を見通して、資質・能力の育成を図る体制づくりが行われてきたことは、高く評価できる。そのことは、新学習指導要領における育成すべき資質・能力が明示化され、授業改善と学習評価によって教育課程そのものを見直す状況になってきたからに他ならない。

南高等学校・附属中学校は、この教育課程の見直しを授業改善と学習評価の充実のための取り組みが重要であることに気付き、中学校と高等学校の職員が協働して取り組む体制づくりに取り組みだしていることは、非常に高く評価できる。そのことは、まさに、高等学校職員の、教育に対する意識改革の起点となる。大学入学共通テストの内容の変化に象徴されるように、これからの日本の学校教育の内容と、それに伴う教育在り方が、今日大きく変わろうとしている。その変化に対応することのできる学校教育の創出のモデルが、南高等学校・附属中学校にあると、高く評価する。

＜横浜市立南高等学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	令和3年4月～令和6年3月
学校教育目標	<p>(教育理念) 知性・自主自立・創造</p> <p>(教育目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 ○自ら考え、自ら行動する力の育成 ○未来を切り拓く力の育成
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○併設型中高一貫教育校としての特色を生かし、6年間で身に付けさせたい資質・能力の育成が図れる計画的かつ継続的な教育課程を、中高教職員が協働してその編成・実施・評価・改善に取り組む。 ○総合的な探究の時間を軸に、様々な教育活動において、課題探究及び課題解決能力を育成し、国際社会で活躍できる人材を育成する。 ○研修等を充実させ、教員の一人ひとりの指導力をより一層向上させるとともに、組織的な取組を通して学校としての教育力を向上させる。
目標設定の理由	<ul style="list-style-type: none"> ○併設型中高一貫教育校として、6年間の安定しかつ充実した教育環境の中で、一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな人間性と高い学力、国際社会で活躍する力の育成を目指している。 ○進学指導重点校としての役割を果たすべく、生徒の学力向上に組織的に取り組み、進路希望の実現を図ることにより、生徒・保護者・市民からの信頼を得て、選ばれる学校へとさらに発展させる。
学校の特色づくりのための重点目標	
重点取組項目	取組目標
1 中高一貫教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○南高等学校と南高等学校附属中学校の職員組織の円滑な連携・協働の推進を図る。 ○現行教育課程における指導の充実はもとより、令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領の実施に向けて、6年間を通して身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の一体化をさらに進めていく。
2 指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材を活用した校内授業研修会や公開授業を開催し、指導力の一層の充実を図り、授業改善を推進する。
3 学校広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの生徒・保護者・地域等が、本校の特色ある教育活動に対する理解を深めてもらえるよう、学校広報活動の充実・改善を図る。
人材育成の取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が校内授業研修会や公開授業に参加し、教育顧問等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。 	

中期学校経営方針における 13 の取組分野

取組分野		取組目標
1	教育目標等の設定・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを進める。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。
2	組織運営 (働き方改革) 教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。
3	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○中高一貫教育校として、6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、改善を行う。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○進学指導重点校として教育課程の不断の改善を行う。
4	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ○研修や校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通じた授業改善を行う。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させると共に、学力を向上させる。
5	特別活動 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。 ○発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、適切な指導を積極的に行う。
7	キャリア教育 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、自己の適性を知り、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。 ○妥協しない進路実現を図るために、計画的・継続的な指導を行う。
8	保健指導 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、視聴覚教育や教育のICT化をさらに推進する。
10	保護者・地域等 との連携協力	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。 ○保護者会・懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。
11	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させるとともに、緊急メール配信システムを適切に運用する。 ○新型コロナウイルス感染症にかかる適切な対応を行う。
12	学校に関する 情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。
13	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。